

大好きな私のかわいい弟

笠原^{かさはら} ほたる

「私にも妹がほしい。一しよにおままごととして遊びたい。」と毎日のように言っていた。ようち園の時、5才はなれたかわいいい妹が生まれた。妹が生まれる直前にお母さんと会えた時を今でもおぼえている。びょういんの先生に、「ハサミでお母さんをいためつけないで。」とないていた。

あれから三年後、ずっとほしかった弟が生まれて、わが家は5人家族になった。弟は、ちぎりパンのような手に、まるまる太った足、プニプニした体、恐竜のような声がかわいくてたまらない。うつぶせで手足をうかせてとぶすがたは、一しよにいろると思うだけでうれしかった。私たちのまほうの言葉は、「大好きな小太郎、小太郎、小太郎、大好きな小太郎、ランララン。」

とほつぺたをさわりながら歌うと、よだれをたらしながら、口が三角になって、わらうすがたは、むねがキユンキユンしてたまらない。

弟が生まれて2週間もたない時、私がコロナに感ぜんしてしまった。いすによりかかって気分が悪い私に、陽性の連らくが来たのだ。家族は大パニック、弟にうつつさないためにも、すぐにはなればなれになったのだ。私が気づいた時には、家の中はお父さんと二人きりで、シーンとしずかで、物すごくさびしい気持ちになった。とくに夜になると、大きな布団に二人きりでねるのはこわかった。

「お父さん、夜が一番さびしい。なんかソワソワして落ち着かないね。」

「じゃ、ねる前にテレビ電話をしようか。」

とお父さんの考えで、10日間は電話でのやりとりをした。おなかもすかず食べる気にならなかったけど、会える日を考えて大好きなきつねうどんも味がしなかったが、がんばって食べた。電話で兄弟のまほうの言葉を歌うといつもの調子で口を三角にわらうすがたに、とても元気がでてきた。

「お父さん、家族ってワイワイしていいね。会えない間に、小太郎の声が大きくなっていった気がするね。」

私は、心が温かい気持ちになった。家族とはなればなれになる事で、家族の大切さを妹と弟から教えてもらった。ひさしぶりに会える時は、うれしくて、うれしくて家の外で家族が帰ってくるのをお父さんとまっていた。そして5人家族が集合すると、家の中がボカボカして、ワイワイした生活にもとった。

今日も私は、

「大好きな小太郎、小太郎、小太郎、大好きな小太郎、ランララン。」

とほつぺたをプニプニさわりながら妹と歌う。もう少し大きくなったら、海に行つてヤドカリつかまえて、いっぱいみせてあげるね。私の妹と弟が、家族の大切さを教えてくれたんだよ。ありがとう。そして笠原家に生まれて来てくれてありがとう。